

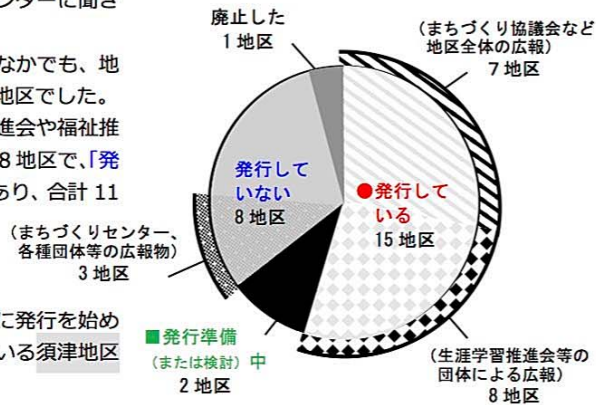
地区の情報を共有しよう！ ～広報編～

地区内の広報の状況について、各まちづくりセンターに聞きしました。

「**広報を発行している**」地区は 15 地区。そのなかでも、地区全体の活動を知らせる広報誌がある地区は 7 地区でした。また、まちづくり協議会ではなく、生涯学習推進会や福祉推進会などの団体が広報誌を発行している地区は 8 地区で、「**発行していない**」と答えた地区のなかにも 3 地区あり、合計 11 地区は広報物があるようです。

さらに、「**発行準備（または検討）中**」の地区が 2 地区ありました。

今回は、継続的に発行している鷹岡地区、新たに発行を始めた伝法地区、独自のスタイルでの広報を考えている須津地区のみなさんにお話をうかがいました。



●発行している ベテラン

鷹岡地区

では、A4、6 ページの広報誌「鷹岡まちづくり新聞」を 1 年に 3 回発行しています。担当しているのは、まちづくり協議会の各部会から選出されたメンバーによる新聞編集委員会。今年度は 12 人で活動しています。このような体制の原型ができたのは、まちづくり協議会設立以前の平成 21 年度から。平成 19 年度にまちづくりセンターで、記者経験をもつ地元の海野庄三さんを講師に新聞講座を開催し、受講した方が生涯学習推進会広報発行を経て、現在のスタイルで発行を始めました。7 月 20 日に発行された最新の第 29 号では、まちづくり協議会や各団体の総会報告、行事報告やお知らせ、インタビュー（区長会長）、まちの話題のほか、子ども向け（キッズ版）ページもあります。また、毎年 4 月号では、1 年間の行事予定を 1 ページを使って紹介しています。これを冷蔵庫に貼ってある家庭もあるそうで、たいへん好評だとか。また、各団体も掲載に合わせて行事予定を決めたり、日程が重ならないように調整しているとのことでした。



最初の 3、4 年間はまちづくりセンターの輪転機で印刷していましたが、もっと写真などを見やすくしたいとの思いから、予算を確保し、現在は印刷業者に依頼しています。まちづくり協議会の予算に占める割合も大きく、その分の責任の重さを感じながらも、まちの人々全員がその様子を知り、地区を身近に感じられるような機会を提供することがまちづくりの第一歩として、広報の果たす役割の重要性を強調されていました。

●発行している ニューフェイス

伝法地区

では、まちづくり協議会日より第 1 号を平成 28 年 1 月に発行しました。タイトルは『伝進』。伝＝伝法＋伝える 進＝前進 という思いを込めたそうです。昨年 9 月から 5 人の広報担当で活動を始め、他地区の広報誌を参考にしながら原稿を作成しました。総務の佐野一徳さんが「広報には、行動的で明るく、話しやすい人が適任」と直接スカウトしたそうです。第 1 号では、行事の報告や地区の話題などを取り上げましたが、次号では協議会の組織や部会などを紹介していく予定です。



また、活動などの当事者に記事を書いてもらい、地区で行われているさまざまな活動やそこに関わる人を紙面を通じて幅広く紹介していくことも考えています。取材によって得られる多くの出会いを喜びとして、楽しく活動しています。



■発行準備中 Coming soon

須津地区

では、生涯学習推進会や福祉推進会など各団体の広報が発行されていますが、まちづくり協議会の広報班でも、まちづくり協議会をもっと身近に感じてほしい、団体同士のつながりをもっと深めたいと活動を始めようと動き出しました。

写真が得意な後藤秀幸さんがこれまで撮りためた地区まちづくりの活動記録写真に、パソコンが得意な渡辺兼晴さんがまちづくり協議会の組織や部会の紹介などを織り交ぜて編集し、パワーポイントを作成しました。現在、各団体の会合の前などで見てもらい、まちづくり



協議会への理解を深めてもらうよう働きかけています。

また、秋の文化祭には展示コーナーを設け、来場者から意見や感想などをもらう計画も進めています。



仲間で話し合い、まちへ出かけ、多くの人との関わり、手間ひまかけて作られている広報。掲載されている活動内容や登場している人々はもちろん、広報を作る人たちの思いにも心を寄せながら、それぞれの地区にある広報をあらためて読み、活用してみてください。地区へのまなざしが変わってくるかもしれません。

コブタレポートのバックナンバーは、富士市のホームページでもダウンロードできます

コブタレポート

検索



スマホでも見てね♪

